

葉山町子育て支援センター ぽけっと 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色1493-1 TEL: 046-876-4152

つい先日までの暑さが嘘のように一気に秋めいてきました。秋といえば運動会シーズン！(今は春に行くところも多いようですが…)みなさんは、お子さんにどのような活躍を期待されますか？

小さなお子さんは、練習のときはとっても喜んで取り組んでいたのに、当日はたくさんの観客に圧倒されて身動きできなくなってしまうなど、**充分発揮できない**のはよくあること。でも、**がっかりしないで**くださいね。当日が全てではありません。お子さんの行事は何でも『**見せるため**』ではなく、**それまでの過程**の中で十分に楽しみ、**その子なりのがんばりを知る**ことが大切。**一人ひとりの見えな**い思いを、**受け止めてあげたい**ですね。必ず、次に繋がります。

そういう**私**は、今**深く反省**しているところです。**4年生の息子**は、昨年からずっと**リレーの選手**になることを**熱望**していました。しかし、**残念ながら補欠**になってしまったのです。候補にもあがったことのない私は(**補欠でも十分!**)と喜ばしかったのですが、次の彼の言葉に驚きを隠せませんでした。「**辞退した…**」と言うのです。「**どうして?補欠は大事な役割なのに。**サッカーの選手だって、試合に出ている選手も同じ気持ちで応援してがんばっているものよ、云々」**正論**を述べながら、だまって聴いている彼を見てふと我に返りました。「**それで本当に良かったの?**」とたずねると、こっくりうなずいていました。そこから一人、いろいろ考えました。彼の心理、**私は何を望んだのだろう? 何ができることが望ましかったのか?**そこで気がついたのは、**ただ彼の悔しさを理解してあげればよかった**ということ。今の**背丈で感じたこと、考えたこと、精一杯の表現**だったのです。『**あるべき姿**』なんて誰かが決めるものではなく、**ただ勝手に思い込んでいる虚像**。子どもたちはまだ**未完成**ながらも、自分の感性や思考をフル回転させて**精一杯がんばっています**。それがまた次に生かされて、ぐんぐん膨らんでいます。**親の勝手な理想**、余計な口出で、その邪魔をしないように気をつけなくてはいいですね。私たちは、そんな子どもたちをほらはらドキドキしながらも見守り、**心からの声援を送って**いきましょう。

センター長 山浦彩子(やまうら あやこ)

10月号

◆ ♪ いいこといいこと ♪

「ふれあい遊び」毎日 11:00-11:30

〈第2・4水曜〉えいごで遊ぼう(松本ようこ先生)

〈第2第4木曜〉おやこでダンス(近ゆきこ先生)

〈第3火・水〉マニスのお話し会(丸山さちこ先生)

◆ 「0歳児つどいの広場」毎週木曜 10:00-11:00

休館日・開館時間

◆ 大掃除

10/31(水)

※広場は11:00~

◆ 休館日

日曜・月曜・祝日

◆ 職員会議 10/20(土)

※広場・一時預かりのご利用は9:00-13:00になります

◆ 職員研修 10/18(木) 12:00で閉館になります



いいこといいこと♪ 広場の遊びから

空想の世界の子どもたち

先日、ぽけっとお庭で、幼稚園降園後に遊びに来てくれた**男の子たち**を見かけました。それは楽しそうに、3人で力を合わせて外遊び用の車を横に倒して集めていました。きっと彼らは車を別のものに見立てているのだろうなあ、と微笑ましく思いました。

そういえば、**私の子どもたち**もよく**空想の世界**で遊んでいました。ウチにゲームがなかったこともあるのでしょうか、**ブロックや折り紙や積み木や人形やビー玉**をさまざまなものに見立て、朝から晩まで部屋は足の踏み場もないくらいに状態になっていました。お友だちがきて、**見立て遊び**をよくしていたように思います。今でも覚えているのは**小学校に入ったくらい**の頃、家中に**スランテープ**などを張りめぐらせて、**男子と女子に分かれて一方がトラップ**などのしかけを作り、一方がそれに**挑戦**するという遊び。**後片付けの大変さ**と共に**記憶**に残っています。でも、このような**空想の世界**で遊べる時代は短く、小学生中学年くらいからは、スポーツやゲームといった遊びが中心になり、**だんだんと空想の世界から離れて**いくように思います。

この原稿を書く私の近くで、**10歳の息子**が、日光お土産の**木刀**に縦に輪ゴムをわたり、**ギター**に見立てて弾いています。こんな遊びをするのもあとわずかな…と少し寂しくなるのでした。



◆ 磯村 えりか (いそむら えりか) 事務・ファミ・ぶち 担当 ◆

一時預かり ぶちのお部屋から

先日、**森戸のお祭り**に**大人3人**で出掛けました。すると**顔見知り**の**パパママ**の姿がちらほら…そして「**ぶちのときとちがう…**」と感じてか、少しとまどい気味の**子どもたち**に会いました。楽しいひとときを過ごすことができたのですが、**なぜか心淋しい私**。

昔(ほんの十数年前のこと)は、イラッとすることも含めて我が子と楽しく参加させていただいていたのに…成長するにつれて、誘っても良い返事をしなくなり、お友だちと行くことが増え、私は**だんだんお祭りに縁が無くなって**いきました。小さいお子さんを連れて**パパママ**の姿を見ているうちに、今までほんやりと感じていた「**やっぱり子どもといっしょがいい!**」という想いが急にはっきりとしてきて、「**子はかすがい!**」だなぁとしみじみ思いました。

子どもが小さい頃は、子どもが喜ぶからと連れてきていたのに、いつのまにか親もうれしくなっていました。子どもが成長して「**あ〜これで私も好きなことができるわ**」と羽を伸ばしつつも、ときどき親子で出掛けることが楽しみに変わりました。考えてみれば、ずっと子どもは**親孝行**をしてくれていたような気がします。

ぶちでも、いつもうれしくて**楽しい時間**を過ごさせていただいているので、子どもたちが私に「**孝行**」してくれているのかな…とってしまうくらいです。**子どもたちに、そしてパパママに、あらためて「毎回とても時間をありがとうございます!」**とお伝えしたいと思います。



◆ 仲下 貴子 (なかした たかこ) ぶち 担当 ◆

ほけっと

祭



ほけっとまつり

11月25日(日)

11:00~14:00

おもちゃつき
やきいも
はやま汁

おはなし
ダンス
パフォーマンス

工作
ワークショップ

親子で遊びに
いらしてください♪

<対象>
主に未就学児と家族
<参加費> あり
<持ち物> 飲み物
タッパーなど容器
おはし



“きらきらホリデー”について

今年度から毎月第2土曜日14:00~16:00は、ほけっとを開放して、結(ゆい)の活動に利用していただいています。「ゆい」は、育てにくさを感じたり、発達につまずきのあるお子さんを育てるご家族を支援するグループ。子育ての経験豊かな先輩ママから、ボランティア団体のスタッフ、養護学校や療育機関の関係者までが、親子の遊び場づくりやお母さんの余暇支援のために、知恵を縛っています。「子育てに悩みをもたないお母さんはいない」ことを考えると、どの親子も支援の対象になります。なにより、どなたにも安心できる居場所になるはずですよ。ぜひ一度参加してみてください♪



9月8日(土)に行われた音楽遊びの様子です。楽器や身体をつかって音と戯れました!



支援者・ボランティアも募集してます



「結」とは・・・

何かしらの「困り感」を抱えている子どもを親と一緒に考え地域で支える会です。

ファミリー・サポート・センター

秋も深くなってまいりました。皆さま、お元気でいらっしゃいますか?先日、東京・三田で行われた全国ファミリー・サポート・センター交流会に参加してきました。北海道から沖縄まで全国のファミリー・サポート・センターのアドバイザーが集まり、各地の活動の様子の報告やよりスムーズな活動を進めるための講習の事例など、研修の一日でした。そこで相互援助活動とは「困ったときはお互いさま」「おねがいね」「まかせてね」という、住民の助け合いの活動だというお話を伺いました。昨年の秋、厚生労働省はファミリー・サポート・センター事業を実施するにあたり、支援会員さんが受講する「保育サポーター養成講座」のカリキュラムとして24時間の研修を実施するようにとの通達を出しました。それは、子育てをめぐる環境の変化に対応して、ファミリー・サポート・センターの活動が国の認める社会サービスになったということ、更に住民の助け合いの活動とはいえず子どもを預かることは子どもの命を預かるということ、その仕事の責任の重さを見ると24時間の研修でも十分とはいえないというお話しに、身の引き締まる思いで帰ってきました。

私たち葉山町ファミリー・サポート・センターでは、発足当時から22時間・24時間と(財)女性労働協会の規定のカリキュラムを採用し「保育サポーター養成講座」を実施してきました。おかげさまで受講して下さる「まかせて会員」さんは、子育てのお手伝いをしたい、子どもたちが大好きでいっしょに遊ぶのが上手、子どもと過ごす時間が好きなど、温かな気持ちで子どもたちと一緒に時間を過ごしてください。いろいろな方に見守られて育つことも子どもたちの成長にとって大切なことという講師の先生のお話にも、いつも温かく活動を進めて下さる「まかせて会員」さんの笑顔が目につく、感謝の気持ちで一杯になりました。

困ったときはお互いさま。まかせて会員の皆様方と一緒に、葉山町に温かな子育ての輪が広がるようにと願いながら、これからも活動を進めてまいりたいと思います。
アドバイザー一同



子育てをこころの発達から考える 子のこころ 親のこころ

子どもは親を映し出す鏡

闘病生活をしていた父が他界しました。その夜は中秋の名月。病院から車で家へ向かう道で降り出した雨がどしゃぶりになり、月はすっかり掻き消されました。死期を覚悟してから、ふたりの弟と父を囲んで親子で語り合う猫子があったので、7年前に母が突然亡くなったときに比べると思われていたのかもしれない。それでも、納得しようとすればするほど、こころの底は荒れ狂う嵐のように混乱していました。しずかな月夜よりかえってよかった…目の前を真っ暗にするくらい激しく打ちつける風雨が、父を看取った私の心情とシンクロして不思議となくさめられたのでした。

「子は親の鏡」…親に育てられたように子は成長するといわれます。幼い頃は親とくに母親との関係性の中で、こころが成長していきます。「たくさん受けとめられた子どもは、自分を信じて人を信頼することができる」「たくさん否定された子どもは、自分や他人をたいせつにすることができない」。こころの中に映し出された親のイメージを支えに、自我は芽生えて発達します。親が自分のありのままを認めてくれれば、自分の存在を肯定して自信をもつことができるし、できないことを強要されたり叱られたりして否定されてばかりだと、自信を失いやる気はなくなります。こころの中にある親のイメージに勇気づけられたい悩まされたい…とても影響力があります。

私たち姉弟の三枚の鏡にも両親の姿が映し出されていました。一枚目は、自分をありのままに認めてくれる父と、優等生でありたいと望み子どもにもそれを求める母。二枚目は、厳しく突き放す一面をもつ父と、あたたかい人間的な情をもつ母。三枚目は、頼れるけれど一人前とみなしてくれない両親…同じ人格なのに三者三様に映し出していて、親子関係が複雑な矛盾さを感じさせられます。正反対に思えるイメージも、映し出す角度を変えれば表裏一体です。いずれも愛情を裏つけるもの…伝わり方が違っただけです。自立を意識した思春期、私は母との関係に激しい葛藤を抱く一方で父に勇気づけられました。ふたりがこの世に存在しなくなった今、こころの鏡に映る父と母は「我が子の鏡にどんな自分の姿を映すか…」日々考える私の支えになっています。

◆上野 祐子(うえの ゆうこ) 副センター長・心理相談担当 ◆